

# 仙台市小学生交通環境学習推進委員会 第1回委員会

平成22年7月26日(月)  
午前10時30分～12時00分  
仙台市役所2階第三委員会室

## 次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 委員および事務局紹介
4. 委嘱状交付
5. 仙台市小学生交通環境学習推進委員会設置要綱
6. 委員長及び副委員長の選出
7. 議 事
  - (1) これまでの取り組みについて
  - (2) 小学生への交通環境学習について
    - 1) 本検討の主旨および方向性
    - 2) 学習内容について
    - 3) 作業部会について
  - (2)その他
    - 1) 次回開催日程の確認
    - 2) 作業部会の開催予定
8. 閉 会

- 資 料 1 これまでの取り組みについて  
資 料 2 小学生への交通環境学習について

- 参考資料 1 バスノート  
参考資料 2 みんなでお出かけしらべ

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 委員名簿

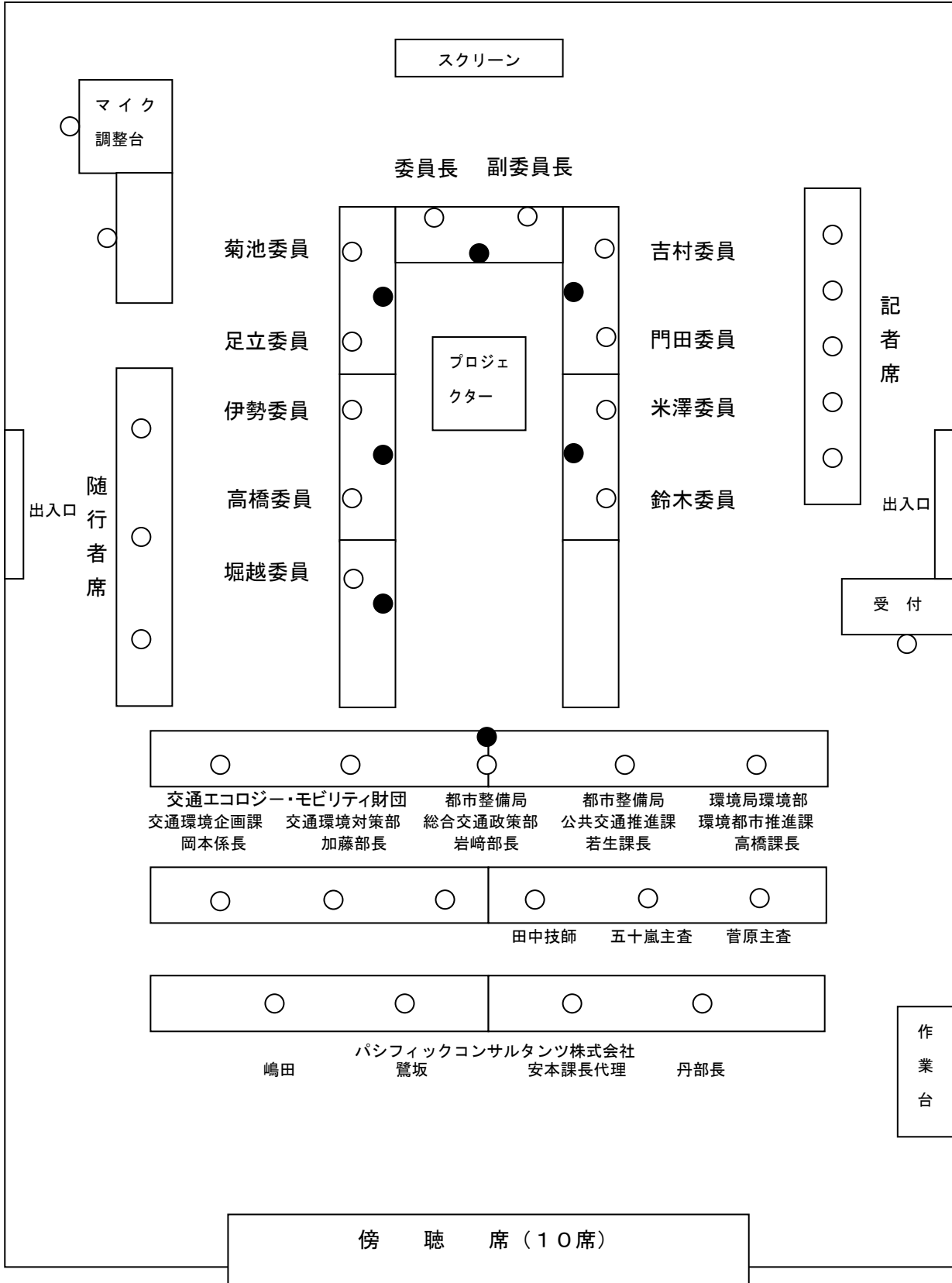
	所属・役職名	氏名
学識経験者	東北工業大学 工学部建設システム工学科 准教授	きくち あきら 菊池 輝
学識経験者	宮城教育大学 大学院教育学研究科 教授	よしむら としゆき 吉村 敏之
市民団体等	NPO法人 まちづくり政策フォーラム 理事	あだち ちかこ 足立 千佳子
市民団体等	財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 理事	かどた ようこ 門田 陽子
市民団体等	NPO法人 まなびのたねネットワーク 代表理事	いせ みゆき 伊勢 みゆき
小学校関係	仙台市立 鶴巻小学校 校長 (仙台市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 会長)	よねざわ たかお 米澤 孝雄
小学校関係	仙台市立 向山小学校 校長 (仙台市小学校教育研究会 社会科部会 会長)	たかはし きょうじ 高橋 享治
行政機関	国土交通省東北運輸局交通環境部環境課 課長	すずき よしお 鈴木 義男
行政機関	仙台市教育局学校教育部教育指導課 課長	ほりこし せいじ 堀越 清治

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 事務局出席者名簿

	所 属 ・ 役 職 名	氏 名
事務局	交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部長	加藤 信次
	交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境企画課 企画係長	岡本 英晃
	環境局環境部環境都市推進課 課長	高橋 泰
	都市整備局総合交通政策部 部長	岩崎 裕直
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 課長	若生 孝志
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主査	菅原 洋二
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主査	五十嵐 大
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 技師	田中 仁
	パシフィックコンサルタンツ株式会社 東北支社	

# 仙台市小学生交通環境学習推進委員会 第1回委員会 席次表

平成22年7月26日(月) 10:30~  
 仙台市役所本庁舎2階第三委員会室



## 第1回 仙台市小学校交通環境学習推進委員会議事録

日 時	平成22年7月26日(月) 10:30~12:00
会 場	仙台市役所2階 第3委員会室
出席委員	菊池輝委員、吉村敏之委員、門田陽子委員、伊勢みゆき委員、米澤孝雄委員、高橋享委員、鈴木義男委員、堀越清治委員 [8名]
欠席委員	足立千佳子委員 [1名]
事務局	交通エコロジー・モビリティ財団 加藤交通環境対策部長、交通エコロジー・モビリティ財団 岡本交通環境企画課係長、岩崎総合交通政策部部長、若生公共交通推進課課長、高橋環境都市推進課課長、菅原公共交通推進課主査、五十嵐公共交通推進課主査
議 事	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 あいさつ</li><li>3 委員および事務局紹介</li><li>4 委嘱状交付</li><li>5 仙台市小学生交通環境学習推進委員会設置要綱</li><li>6 委員長及び副委員長の選出</li><li>7 議事<ol style="list-style-type: none"><li>(1) これまでの取り組みについて</li><li>(2) 小学生への交通環境学習について<ol style="list-style-type: none"><li>1) 本検討の主旨および方向性</li><li>2) 学習内容について</li><li>3) 作業部会について</li></ol></li><li>(3) その他<ol style="list-style-type: none"><li>1) 次回開催日程の確認</li><li>2) 作業部会の開催予定</li></ol></li></ol></li><li>8 閉会</li></ol>
配付資料	<ol style="list-style-type: none"><li>1 これまでの取り組みについて</li><li>2 小学生への交通環境学習について</li></ol>
参考資料	<ol style="list-style-type: none"><li>1 バスノート</li><li>2 みんなでお出かけしらべ</li></ol>

## 1 開会

### ○事務局（菅原主査）

それでは、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、「第1回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会」を開催いたします。

## 2 あいさつ

### ○事務局（菅原主査）

まず、会議の開催にあたりまして、次第の2番目「あいさつ」に移らせていただきます。仙台市都市整備局総合交通政策部部長の岩崎よりご挨拶申し上げます。

### ○事務局（岩崎総合交通政策部部長）

皆様おはようございます。私、仙台市都市整備局総合交通政策部部長をしております岩崎と申します。皆様、本当にお暑い中、本委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございました。

さて仙台市では、お手元に青い印刷物、お配りしておりますけれども、仙台都市交通プランというこれ概要版ですが、今日は説明の方すみません、実はこういったプランを今立てて、先週で終わったところなんですけれども、5年後にですね仙台市の地下鉄東西線を開業すると、これを捉えて、このような新たに積極的に公共交通を、利用促進を図っていこうという取り組みをしていこうというふうに考えております。この公共交通を中心とした、車に依存しない持続可能な都市づくりを、市民協働により進めていくという考えを打ち出していくことでございます。

そこで、次の代の主要な公共交通の利用者となる、小学生のみなさんに対しまして、公共交通と環境、このようなテーマで学習する機会を創出し、小学生のみなさんの意識が行動において、このテーマにつながるころに向かっていく、又は変えていくような取り組みが、今後ますます重要となってくるものと考えております。

このたび、このようなテーマに関しまして、小学生が効果的に理解できるような学習方法のあり方を検討していくため、今日お集まりの有識者の皆様のご協力、またご意見をいただきながら進める、仙台市小学生交通環境学習推進委員会を設置いたしましたところございまして、本日第1回目の会を開催することになりました。

どうぞ、私の事務方の準備不足で、手続きがなかなか遅れて申し訳ございませんでしたけれども、どうぞ皆様のお力をいただきながら、次代の公共交通の主たる利用者となる、市内の小学生のみなさんに適した学習方法を、ご検討いただくと我々としては幸いだというふうに感じているところでございます。これから、今年度で終わらないというのは後でご説明ありますけれども、今後ともこういった取り組みを、持続できるようにしていくうえにはどうしたらいいか、また先ほど申しました効果的な学習方法のあり方というのは、どのようなものがよいのか、その辺をできるだけみなさんの力をいただい

て、ぜひ仙台市が公共交通そして環境、そういったところに小学生だけではなくて、市民みなさんが理解して行動を取っていただく、そういった都市にして行きたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。簡単ではございませうけれども、ご挨拶に代えさせていただきますたいと思ひます。どうもありがとうございます。

○事務局（菅原主査）

続きまして、交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部長の加藤様より、ご挨拶いただきます。

○交通エコロジー・モビリティ財団 加藤交通環境対策部長

みなさん、おはようございます。交通エコロジー・モビリティ財団の加藤でございます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。事務局の一端を担う者として、ご挨拶させていただきます。

本日、第1回目の委員会を開催される運びとなりまして、大変うれしく思っております。また、仙台市の方々、本当にどうもありがとうございました。私共の財団の取り組みについて、簡単にご紹介させていただきますと、私共の財団は、国土交通省さんが所管しているところでございます。主に2つの事業をやっておりまして、1つには交通バリアフリー対策推進と、それから2つ目には、運輸交通に係わる環境問題、取り分け地球温暖化問題に取り組んでいるところでございます。環境問題の取り組みにつきましては、この交通環境学習の推進を始めとしまして、例えば、トラック、バス、タクシーの運輸事業さんの環境問題の取り組みを推進する、グリーン経営認証制度というものをやっておりますし、また、エコドライブの普及とか、エコ通勤の認証制度とか、環境的に持続可能な交通（EST）推進とか、カーボンオフセットの取り組みの推進とか、いろいろやっているところでございます。

交通環境学習につきましては、結構前から私ども取り組んでおりまして、平成14年ぐらいになりますでしょうか、今後継続的に実施していただくための仕組みの構築をしていただきたいということで、最初に大阪の和泉市さんを支援してまいりました。その後、金沢市さんとか、岐阜県の御嵩町さん、仙台市さんということで、4番目の自治体になります。こういう自治体さんの支援の他に、今年度から新たに直接ですね、学校に対する支援もやるということでスタートしておりますし、またお手元に配らせていただいておりますように、いろんなテキストとか、事例集みたいなものとかですね、そもそも何で交通環境学習なのというような意味で、モビリティ・マネジメント教育の進めというのもこの前ようやく完成して、こういうようなサポート、資料提供というものをやらせていただいているところでございます。仙台市さんには、これから私ども3年間の予定で、ご支援させていただきますけれども、ぜひ継続的に実施できるような仕組みを、みなさんでご検討していただきたいと、ご期待しているところでございます。

### 3 委員および事務局紹介

#### ○事務局（菅原主査）

はい、ありがとうございます。それでは、3番の委員および事務局紹介に移らせていただきます。まず始めに、仙台市小学生交通環境学習推進委員会の委員の紹介ですが、私の方からご役職、ご指名の方をご案内させていただきますので、お名前を呼ばれましたら、簡単で結構ですので、一言ずつご挨拶の方お願いいたします。それでは、資料の委員名簿の順番にご紹介させていただきます。

まず、東北工業大学 工学部建設システム工学科准教授でいらっしゃる菊池輝委員です。

#### ○菊池輝委員

東北工業大学の菊池と申します。私、この4月から東北工業大学の方に赴任いたしました。専門は交通計画、それに関する交通行動分析を行っております。よろしくお願いいたします。

#### ○事務局（菅原主査）

続きまして、宮城教育大学 大学院教育学研究科教授 吉村敏之委員でございます。

#### ○吉村敏之委員

吉村と申します。よろしくお願いいたします。私、宮城教育大学で教育の方法ということで、主に授業について研究しております。中でも、生きる力をつけていく総合的な学習ということ、どのようにすれば実現できるかということで、仙台市などでの学校の先生方と一緒に研究しておりますので、今回非常に社会的にも意義のあるお仕事に加えていただきまして、光栄に思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○事務局（菅原主査）

続きまして、足立委員でございますが、本日所属しております、まちづくり政策フォーラムの行事が重なっております、可能であれば遅れて出席されますが、かなわない場合は、やむを得ず欠席されるというご報告が入っております。

続きまして、財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事の門田陽子委員でございます。

#### ○門田陽子委員

門田でございます。よろしくお願いいたします。1999年から民間の活動団体が始まっております「メロン」でございますけれども、2001年に地球温暖化防止対策の法律に基づいて、宮城県から「メロン」が地球温暖化防止活動推進センターとして指定を受けて以来、そちらの事務局、それから運営委員副センター長としてですね、子どもたちに対する地球温暖化教育を含めて、様々なところでの普及、啓発、それから現実的



な宮城県内でのCO2削減に向けた実現の取り組みとして、様々行ってまいりました。100名に近い、地球温暖化防止活動推進員というボランティアの皆様が、私どもと共に宮城県内で温暖化防止について活動して下さっておりますので、今回この機会を頂戴いたしまして、何らかセンターと共にですね、活動のお力、少しでもなれたらというふうに考えております。貴重な機会をいただきまして、本当に感謝申し上げます。どうぞ、よろしく願いいたします。

○事務局（菅原主査）

続きまして、NPO法人 まなびのたねネットワーク代表理事 伊勢みゆき委員でございます。

○伊勢みゆき委員

皆様おはようございます。伊勢と申します。まなびのたねネットワークは教育支援、学校教員と社会教育の支援を行っているNPOでございます。立ち上げまして法人化して3年目となります。現在は仙台市内の小中学校で「自分づくり教育」いわゆるキャリア教育というところの支援ですとか、実際に学校の方に行かせていただいて、生きる力をつけるための考える、互いに学び合うような授業を行わせていただいたり、先生の方にプログラムを提案させていただいたりしております。また、私共の団体メンバーがそれぞれに今、学校支援地域本部事業ということで、小学校の方にスーパーバイザー、いわゆるコーディネーターとして入らせていただいております。いろんな外部の方の持っているノウハウやニーズ、素晴らしいお力をですね、学校の方につなぐ実際の役割を担っております。そういった意味では、そちらも3年で仕組みをつくるという命を受けておりますので、こちらも継続的に効果的な仕組みをつくるということで、同じだなと思って伺っておりました。大変光栄でございます、どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（菅原主査）

続きまして、仙台市立鶴巻小学校 校長で仙台市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 会長 米澤孝雄委員でございます。

○米澤孝雄委員

おはようございます。米澤孝雄でございます。仙台市の子どもたち、生活科、それから総合的な学習の時間には公共交通機関、大変お世話になっております。今後とも仙台市、そして宮城県、よっては日本の子どもたちのために意義ある教育活動を模索していきたいと思っております。みなさんのお知恵を集結して、仙台の子どもたちのために頑張りたいと思っております。よろしくどうぞお願いいたします。

○事務局（菅原主査）

続きまして、仙台市立向山小学校 校長で仙台市小学校教育研究会 社会科部会 会長 高橋亨治委員でございます。

○高橋亨治委員

高橋でございます。よろしくお願いします。社会科教育の中でですね、自分たちと子どもたちが、どのように交通環境と関わりを持たせる学習が展開できるのかなということで、これからもご指導いただきから検討していきたいなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局（菅原主査）

続きまして、国土交通省東北運輸局交通環境部環境課 課長 鈴木義男委員でございます。

○鈴木義男委員

東北運輸局の鈴木です。おはようございます。どうぞよろしくお願いします。私は行政ということで、国土交通省の中の交通運輸関係全般を担当しております。運輸局でございます。自動車、船、鉄道という各運輸モードごとの環境全般、CO2排出削減全般を担当しておりますので、交通モードにかかるサポートできるところについて、お手伝いをさせていただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（菅原主査）

続きまして、仙台市教育局学校教育部教育指導課 課長 堀越清治委員でございます。

○堀越清治委員

堀越でございます。会合に遅れまして申し訳ございません。夏休みに入ったんですけれども、いろいろなことがございまして、その対応でちょっと遅くなりました。交通環境学習推進委員会ということで、多くの学識経験者、また学校関係者の方々に入っていることを嬉しく思っております。特に教育指導課としての例えば、宮城教育大学の吉村先生にはいろんな立場でこれまでもですね、ご教授いただいております。また、伊勢さんにもいろんな形で大変お世話になっております。校長先生お2人も入っていらっしゃるんですね、本当にそういう意味では万全な体制だなと思って大変嬉しく思っております。

今、私教育指導課の立場でございますけれども、学校に対してのいろんな要望というのは、大変多くなってございます。何々学習とかつというものが、数えてみると80近いんですね。そういう中で、授業日数もやはり限られてきていると、それから来年4月からは新学習指導要領に基づく「生きる力」の育成ということもあります。そういう中でやはりこれまでやってきたことを、いかにこう上手く関わりながらこの交通環境学習が推進できるのか、その視点をぜひ入れていただきながら、やはり学校にとってですね、子どもと向き合う時間をやはりきちんと確保する、それを大前提として考えていくような、そういうふうな考えが必要なのかなと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

たします。

○事務局（菅原主査）

ありがとうございました。続きまして、事務局の出席者でございますが、本日の事務局出席者名簿をお手元にお配りしておりますので、それをもって紹介と代えさせていただきます。最後になりましたけれども、私、本日司会をしております、公共交通推進課の菅原と申します。よろしく願いいたします。

4 委嘱状交付

○事務局

続きまして、4番の委嘱状の交付に移らせていただきます。委員の紹介と順番が逆になってしまいましたが、ご了承願います。

それでは、仙台市都市整備局総合交通政策部部長 岩崎より、委嘱状の交付を行います。

（委嘱状の交付）

5 仙台市小学生交通環境学習推進委員会設置要綱

○事務局（菅原主査）

続きまして、5番の仙台市小学生交通環境学習推進委員会設置要綱について、ご説明いたします。要綱につきまして、事務局よりご説明いたします。

○事務局（五十嵐主査）

公共交通推進課の五十嵐と申します。仙台市小学生交通環境学習推進委員会設置要綱について、説明させていただきます。座って説明させていただきたいと思っております。

まず第1条（設置）でございます。仙台市小学生交通環境学習の学習内容を検討し、市内の小学校における交通環境学習の継続的な実施のための仕組みづくりをするため、仙台市小学生交通環境学習推進委員会（以下「委員会」という。）を設置いたします。

第2条（検討事項）です。第2条 委員会の検討事項は、次のとおりといたします。第1号 仙台市小学生交通環境学習の学習内容、第2号 仙台市小学生交通環境学習の教材、第3号 仙台市小学生交通環境学習の実施手法、第4号 その他仙台市小学生交通環境学習の推進に関し必要な事項となります。

次に第3条（組織等）でございます。委員会は、委員12名以内で組織いたします。第2項 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱します。第1号 学識経験者、第2号 市民活動団体等の役員、第3号 小学校の職員、第4号 行政機関の職員、第3項 委員の任期は、3年とします。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間といたします。第4項 委員は、再任されることができます。

次に、第4条（委員長及び副委員長）についてでございます。委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員長は委員の互選により、副委員長は委員長の指名によりそれぞれ

定めることとします。第2項 委員長は、委員会を代表し、会務を総理します。第3項 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理します。

第5条（会議）。委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となります。第2項 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができません。第3項 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによります。

第4項 議長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴き、又は説明を求めることができます。

第6条（庶務）。委員会の庶務は、都市整備局総合交通政策部公共交通推進課において処理いたします。

第7条（雑則）。この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定めます。

附 則、この要綱は、平成22年7月15日から実施いたします。

以上が、設置要綱の説明になります。

## 6 委員長及び副委員長の選出

### ○事務局（菅原主査）

続きまして6番、委員長及び副委員長の選出にまいります。要綱第4条第1項の規定に従い、委員長の推薦を行いたいと思います。委員長の選出を行いたいと思います。委員長の選出は委員の互選となっております。どなたか自薦他薦を含め、ご推薦ありますでしょうか。

### ○吉村敏之委員

はい、よろしいでしょうか。

### ○事務局（菅原主査）

はい、吉村委員。

### ○吉村敏之委員

菊池輝先生にぜひお願いしたいと思います。菊池先生をご推薦いたします。

### ○事務局

ありがとうございます。吉村委員より、菊池委員を委員長に推薦する意見が出されましたが、他の委員の方、いかがでしょうか。

（賛意）

○事務局（菅原主査）

ありがとうございます。それでは、拍手をいただきましたので、菊池委員を委員長にお願いいたします。菊池委員は委員長席の方に移動願います。

それでは、ここからの進行は要綱第5条の規定に従い、委員長の進行で進めたいと思いますので、菊池委員長よろしくをお願いいたします。

○菊池輝委員長

改めまして、東北工業大学の菊池でございます。よろしくお願いいたします。

この委員会ですけれども、設置要綱の第1条にありますように、仙台市における小学生の交通環境学習、この学習内容を具体的に検討していくと、そして尚且つ、学習の継続的、そして広範囲に渡る仕組みづくりをしていくということで、この委員会が設置されております。この委員会のメンバーですけれども、交通問題に携わる者、環境問題に携わる方々、そして教育に携わる方々と業者の管轄でいいますと、非常に様々な分野からこのメンバーとしてお集まりいただいております。この第1条の目的を達成するために、そして尚且つ少しでもよいものを、よい仕組みづくりをするために、この委員会を進めてまいりたいと思いますので、皆様のご協力よろしくをお願いいたします。また、会議におきましては、積極的にそして建設的なご意見、ご発言、ご議論などお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは最初に、副委員長の選出を行いたいと思います。先ほどの設置要綱の第4条に則りますと、私が指名するということですので、副委員長といたしまして、吉村委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○吉村敏之委員

よろしくお願いいたします。

○菊池輝委員長

それでは、議事の方に入っていく前にですね、この会の成立についてお話をしたいと思います。本日、足立委員の方が現時点で欠席されておりますけれども、今出席にしているメンバーで定足数に達しているため、この会議は成立しているということをご報告させていただきます。

また、本日の議事録署名委員を指名させていただきます。これは名簿順で門田委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○門田陽子委員

かしこまりました。

○菊池輝委員長

引き続きまして、この会議の公開、非公開について確認させていただきます。

本委員会については、原則といたしまして公開とし、特定の個人の識別し得るような

情報を扱う場合などに、そういうことがある場合は、必要に応じて非公開とする、ということにさせていただきたいんですけども、よろしいでしょうか。

(賛意)

はい、ありがとうございます。

あと、傍聴の方々ですね。会議の傍聴に係るルールにつきましては、これを守っていただいて、円滑な会議の進行にご協力いただきたいと思いますとお願いたします。

それでは、議事の方に入らせていただきます。

## 7 議事

### (1) これまでの取り組みについて

#### ○菊池輝委員長

まず、これまでの取り組みについて、事務局の方から説明お願いいたします。

#### ○事務局（五十嵐主査）

それでは、資料1「これまでの取り組み」について、ということで説明させていただきます。

仙台市では、これまでに交通環境学習といたしまして、小学生低学年を対象といたしまして、「バスの乗車体験」であるとか、高学年を対象といたしました「バスでお出かけしらべ教室」と、いったものを行ってまいりました。その取り組みの背景であるとか、考え方、実際の取り組み内容について概訳の説明をさせていただきます。資料と同じものになりますけれども、前方のスライドなどもご覧いただければと思います。

始めに、仙台市では資料3ページ目になりますが、現在の人口減少時代の到来であるとか、急速な高齢化の進展、環境問題への対応、財政的制約の強まりなどの大きな社会情勢の変化への、早急な対応が求められているという状況でございます。そのような中で、本市の持続的な発展に向けまして、まちづくりは鉄道やバスなどの、公共交通を中心としたまとまりのある都市形成を図り、賑わいのあるまちを市民とともに目指していくというところでございます。

一方で、自動車は気軽にかつ快適に移動できる乗り物でございますが、大気汚染であるとか地球温暖化などの環境問題や慢性的な交通渋滞、公共交通機関の衰退など様々な問題を引き起こしております。このような問題に対処するためにも、一人ひとりが公共交通と環境問題との関わりを認識・理解することが重要であると考えております。

このような中、本市におきましても、市民の公共交通離れが進行しております。子どもの頃から公共交通を利用する機会が減りまして、公共交通を利用した経験が無い小学生が増えてきていると聴いております。今後、小学生に公共交通と環境について学ぶ機会を創出し、環境意識の醸成と将来の公共交通利用者への育成を図ることが、重要であると考えております。このような認識に立ち、これまでも仙台市では小学生に向けた取

り組みを行ってまいりました。

次に、これまでに行ってきた取り組みについてでございます。始めに、小学校低学年への取り組み「バス乗車体験」でございます。バスをより身近に感じてもらえることを目的といたしまして、平成16年度から実施しております。通常の路線バスで使用している車両を学校に配車いたしまして、実際に乗ってもらいバスの営業所であるとか、ガスステーションなどにいたりして、バスの乗り方を学んでもらうなどの取り組みを行ってまいりました。平成20年度からはNPOさんとの協働による事業を行うなど、継続的にかつ普及拡大させるための事業手法を模索してきております。参考でお配りしております、こちらの青いテキストこちらがバスノートというものです、こちらを使用して学習してきております。こちらの資料については、仙台市の方が使用していたものをベースにいたしまして、国土交通省東北運輸局さんの方に再編集していただいたものがございます。こちらのテキストの方さらっと説明させていただきますけれども、1ページと2ページについては、バスの乗車方法と車内でのマナー、次に3ページ、4ページの方では、バスからの降り方、それからお金の払い方などですね。あとは5ページ、6ページでは、バス探検といたしましてバスの構造や車内の様子が学習できるようになっております。7ページ、8ページでは仙台市内を走っている様々なバスについて、そして最後、9ページ、10ページについてこちらでバスが環境にやさしい乗り物であることを、クイズ形式で考えてもらうというこういった構成になっております。

資料1の方に戻りますけれども、資料1の6ページ目でございますが、次に平成16年度からのバス乗車体験実施校の推移と、アンケート結果でございます。平成19年度まで実施校を増やし、20校まで増やしてきておりましたけれども、職員が直接このバス乗車体験を行ってきたということもありまして、予算や人員的にもこれ以上の拡大が難しい状況となってきております。平成20年度からは、バス乗車体験の担い手と致しましてNPOさんと共に行うなどですね、事業手法を替えて実施してきております。実施時のアンケートでは、普段の移動手段の9割近くが、お家の方と出かけるときには自家用車で外出しているというような回答になっておりまして、本取り組みの後、行ったアンケートでは7割の児童がお家の方と一緒にバスに乗れそうだと、回答していただいております。

次に7ページ目でございますが、高学年への取り組みでございます。路線バスを利用いたしまして目的地まで行けるように、インターネットやバスの路線図などを使って駅やバス亭、バス路線図の調べ方を学んでいただく「お出かけしらべ教室」を実施いたしました。使用した教材が、こちらカラフルな表紙になってます「みんなでお出かけしらべ」と書いてございます。こちらのテキストで学習を行ってきております。こちらの資料については、NPO法人まちづくり政策フォーラムさんの方に作成していただいたものがございます。こちら簡単に説明いたしますけれども、1ページ目が、調べ方の全体の流れになっております。2ページ目に、インターネットなどを使ったバスでの行き方の調べ方、3ページ目は、バス路線図を使った調べ方、そして4ページ目が、地下鉄を使って小学校から仙台駅までの行き方を学ぶような内容になっております。そして5ページ目に、仙台駅前のバス乗り場の調べ方を学習いたしまして、最後7ページになり

ますけれども、これまで学習してきたことをまとめるといったような構成になっております。

資料1の方に戻りますけれども、高学年になりますと低学年に比べて普段の外出でも公共交通機関の利用している割合が、若干高くなっております。また、本取り組み後については、8割の児童が1人でバスに乗れそうだと回答していただいております。

次に小学校からの意見ということで、これらの取り組みの中で、小学校の先生方と意見交換会を行いまして、その中で出された意見等の紹介でございます。「参加した児童は楽しみながら学習することができた」や、「低学年では実際に乗車するという体験を通して学習することで、理解が深まる」だとか、「親子のコミュニケーションの非常に良い機会となった」と、概ね良い意見をいただいております。一方で、「説明が長く、小学生が飽きてしまった」とか、「DVD等で事前学習することで、小学生がより理解を深められるのではないか」といったような課題もいただきました。

最後に、これまでの取り組みの中で感じている課題でございますが、実施できる学校が限られておりまして、実施が単発的で継続的な事業になっていないということ。また、小学生への説明に慣れていないために、理解されにくいところがあると、さらに環境面での説明が若干不足しており、交通と環境をさらにもっともっと連携させる必要があるということ、それから小学校の先生に対しても、交通と環境に関する知識や理解を深めてもらう必要があると、等があげられております。

これまでの取り組みについての説明は以上になります。

○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。ただ今資料1につきまして、ご説明いただきました。資料1の位置づけといたしましては、これまで仙台市が取り組んできたことの報告という認識でよろしいかと思っております。特に低学年向けのバスの乗車体験、平成16年度から非常に長期間に渡って実施してきております。またですね、長期的な取り組みの中から反省点であるとか、今後の課題といったことのご説明がありました。今のご説明ならびに、この資料1につきまして、何かご質問等ございますでしょうか。

特にございませんでしたら、資料1は報告という位置づけですので、次の方に進めさせていただきますと思いますが、よろしいですか。

○伊勢みゆき委員

すみません、よろしいですか。

○菊池輝委員長

はい。

○伊勢みゆき委員

小学校からの意見というところでご質問させていただきます。授業の方で実施されているかと思うのですがその中で、親子のコミュニケーションの非常に良い機会となった



というその背景ですね、授業自体は小学生が受けられていると思うのですが、ここでなぜ、親子のコミュニケーションが出てきたのか、その背景を教えていただければと思います。

○事務局（五十嵐主査）

こちらはですね、子どもたちがバスに乗ってお家に帰って、今日は学校でバスに乗ったんだよと、いったようなお話を家庭ですることによって、家庭での話題の提供にもつながったということで、そちらが今回アンケート調査を行いまして、子どもたちと後は保護者さん、それから学校の先生方の方にアンケート調査を行ったんですけども、その保護者さんからのご意見といたしまして、そういったお話をうかがったというところでございます。

○伊勢みゆき委員

ありがとうございます。

○菊池輝委員長

ここに、ご父兄の方にも参加していただくような、というものではなかったということですね。はい、ありがとうございます。その他、何かご質問ございますか。はい、お願いいたします。

○門田陽子委員

1つ教えてください。実際にこの実施した時のアンケートはあるんですが、終わった後に本当に乗ったかどうかとか、家族、この16年からなされた後に、子どもが親を引っ張ってバスに乗ったとか、地下鉄に乗ったというような聞き取りとか、追っかけとかそういった事はしたことはあるのでしょうか。

○事務局（五十嵐主査）

そういったアンケートというのも実際にはしておりませんが、学校によってはですね、16年度から3回ぐらいですね行った学校もございますので、そういった実際にその学習をやった後の効果というところを数年後ですね、そういったところは実際課題になっているところかと思われまして、こういったところについても今年からもですね、この委員会の中でフォローしていければと、いいかなというところを考えてございます。

○門田陽子委員

ありがとうございます。

○菊池輝委員長

その他、よろしいでしょうか。

○堀越清治委員

今後の課題のところでも2つお聴きしたいんですけども、まず1番目、多くの学校から希望はあるが、実施できる学校数が限られているというのは、先ほどのご説明にもあったのかもしれませんが、平成19年まで20校と増えていったと、私以前その数字を聞いて、あっこれだけ学校のためにいろいろ工夫して、乗車体験やっていたいてたんだなあというところ嬉しく思うのですが、実施できる学校数が限られているというのは、これは交通局さんの方の事情で、それが叶わないということなのか、どうしてなのかという点が1点。それから2つ目が、この実施が単発的であり複数年に渡り継続的な事業になっていない、これは理由としてはどういうふうなことを考えられているのか、また複数年に渡ってどのような、その理由ですね、どのような訳でこうなのか、そこからどのように分析なされているのか教えていただければと思います。

○事務局（五十嵐主査）

まずですね、実施できる学校数についてでございますが、仙台市内、今年1校増えまして126校ほどの小学校がございます。公共交通推進課の方から、バス乗車体験についての取り組みを、各小学校さんの方に打診しましたところ、125校のうちだいたい50校近くからですね、ぜひうちの学校で取り組んでください、というような回答をいただいているところでございますけれども、なにぶん職員も限られておりますし、予算的にも限られていると、いうところでございますので、その中からですね、厳選して取り組んできていたというところでございます。どうしても、平成20年まで20校ということで増やしてきていたんですけども、どうしても20校となってしまいますと、本当に1人が掛かりっきりでですね、ずっとこのバス乗車体ばかりをやっているという状況になってしましまして、なかなか継続が難しいという状況になってきましたので、その担い手となるNPOさんと共にいうような形で、事業の手法の方を模索してきたところでございます。

それから、複数年に渡って継続的な事業になっていない、というところについても今説明させていただいたようなところでですね、どうしても今年はできても、来年はできないとかですね、より多くの学校で取り組んでいただきたいのですけれども、なかなか拡大・普及というのが難しいという課題がある、というところでございます。

○菊池輝委員長

ありがとうございます。

○米澤孝雄委員

よろしいですか、今後ですね、この委員会で効果的な学習方法などを学校に提案した場合に、申し込み校が増えることが予想されますが、今後年間、何校程度実施を見込んでおられるのか、その辺りを教えてもらえますか。

○事務局（若生公共交通推進課課長）

これはまだ、実際の数値としては当分まだ見込んでおりません。と申しますのは、今後ですね、乗車体験というもので進めていくのか、あるいは低学年にはこういう内容の学習内容が適してますとか、こういうもので取り組んだらどうかというような、そういうようなご意見をこの委員会の中で考えていただいて、必ずしも私どもがこれまでやってきたような乗車体験といったですね、お出かけ教室そういうものをベースにするのではなくてですね、新たなご提案として、なるべく多くの小学校、これから毎年、その学年に就く子どもさんたちに学習できるような内容にですね、学習内容の整理といいますか、私どもの方でいうと整備みたいな感じがするのですけれども、その環境を整備していくということを、今後ご議論いただきたいと考えております。ですから、乗車体験みたいなですね、物理的にどうだ、というような数的なものは、この事務局では考えてございませんという思いです。

○菊池輝委員長

ありがとうございます。次の議事になります、今年度の計画・提案、今年度といえますか、今後の計画の提案というところと、今いくつかご質問あったところ関連するかと思いますので、議事の方、先に進めさせていただきたいと思います。それでは、2番目の議事ですね「小学生への交通環境学習について」ということで、資料の説明、事務局お願いいたします。

(2) 小学生への交通環境学習について

1) 本検討の主旨および方向性

○事務局（五十嵐主査）

はい、それでは、資料2「小学生への交通環境学習について」ということで説明させていただきます。

資料1でご説明いたしました、これまでに取り組んできたことを踏まえまして、今後の交通環境学習の取り組みについての検討を大きく「本検討の主旨および方向性」「学習内容について」それから「作業部会について」とこの3つに区分して説明させていただきます。

始めに、「本検討の主旨および方向性」でございますが、これまで小学校低学年、高学年に対して、取り組んできました「バス乗車体験」や「お出かけしらべ教室」などは、小学生の学習課題として有効だと考えておりました、実施を通じて見えてきた課題を解消していき、各教科と連携しながら、全市的で継続的な取り組みとしていきたいと考えているところでございます。そのためにも、環境教育と連携して小学校教育の一環として実施できる枠組みを構築する検討を、今年度から3ヵ年かけまして行ってまいりたいと思っております。

次に、委員会での検討の流れの（案）についてご説明いたします。まず、Step1としては委員会、作業部会において学習内容の検討を行いまして、交通環境学習の教材やマ

マニュアルの案を作成し、協力していただける小学校で実験的に授業などを行ってまいります。次に、Step 2として教材および指導マニュアル等の策定でございます。Step 1で得られた検討結果を基に精査いたしまして、教材および指導マニュアルの作成を行います。次に、Step 3として交通環境学習の普及に向けた検討を行います。担い手の自主的な実施上の課題検討を行いまして、実験的な授業を通じまして実現性の検証などを行っていくことで、広範囲で継続的な交通環境学習の実施を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、低学年、中学年、高学年ごとの各計画策定の流れについてでございます。平成22年度、今年度でございますが、低学年と高学年では、学習教材の案、指導マニュアルの案の検討を行いまして、平成23年度にはそれらを固めて、平成24年度には全市的に普及させ、継続的に取り組んでいける体制であるとか、手法についての検討を行っていきたいと考えております。中学年ではこれまでの取り組みもなかったということから、低学年、高学年から1年ずらしたかたちで、平成22年度に学習内容についての検討を深めまして、平成23年度に学習教材の案、指導マニュアルの案、平成24年度にそれらを固めまして、低学年、高学年と同じく普及・継続の方法について検討していきたいと考えております。

ただ今お示ししている事務局案の考え方といたしましては、低学年、中学年、高学年という段階でステップアップをしていくようなかたちで、6年間を通じた学習の一貫性を担保した中で進めていきたいと考えております。低学年では「バス乗車体験」を通じた公共交通とのふれあいから始めまして、中学年では公共交通の役割について理解いたしまして、そして高学年では公共交通の活用方策について、自ら課題を掘り下げ実践してもらいかたちで考えております。

続きまして、2つ目の学習内容についてでございます。本来的にはこちらの学習内容については、本委員会での検討を基に構築していく分でございますが、先ほどご説明いたしました検討の方向性に基づきまして、あくまでもたたき台ということで事務局案を説明させていただきたいと思っております。まず、低学年ですが生活科での「まちにいく計画を立てよう」であるとか「乗り物にのるときのマナー」といったものを生活科で学習するわけですがけれども、そういった学習内容を仙台市の公共交通に特化したかたちで、さらに「バス乗車体験」を通じて、より身近で理解しやすいものとしていくことを考えております。具体的な学習内容のイメージ（案）でございますが、学習項目としては「バスの乗り方・降り方」それから「車内でのマナー」「バスについて」「バスが環境にやさしい乗り物であること」等、先ほどお示ししたバスノートで書かれてあるようなものをイメージしてございます。

次に中学年ですが、中学年3・4年生では社会科で「まちの仕組み」について学習することから、仙台市の公共交通がどのように整備され、どのように生活や環境に関わっているか、そういったことを理解できるような内容を考えております。具体的な学習内容のイメージ（案）でございますが、学習項目としては「仙台市の公共交通の状況」や「公共交通のはたす役割」「公共交通と環境」等が考えられます。

次に高学年でございますが、総合的な学習で「環境」や「私たちのまち」等をテーマ

に自ら課題を発見する「課題発見型」それから、課題を解決するために自分自身の活動で体感してもらう「実践型」の学習を考えております。具体的な学習内容イメージでございますが、学習項目としては課題発見型として地球温暖化について考えるであるとか、交通ゲーム、実践型としてはこれまでの取り組みにもありました「お出かけしらべ」などをベースといたしまして、車や公共交通の使い方などを考えております。

次に、本取り組みの評価といたしまして、各年度ごとに事前、事後での児童、教師、保護者へのアンケート調査などを実施いたしまして、次年度以降の取り組みの検討材料にしていきたいと考えております。

最後になりますけれども、3つ目の作業部会について説明させていただきます。こちらが本委員会、および検討体制の全体像でございます。本検討では、交通エコロジー・モビリティ財団様の支援をいただきながら、本委員会での学習内容や学習教材についての検討・策定を行っていきたいと思っております。また、委員会で議論する原案の作成につきましては、本委員会に作業部会を設置させていただきまして、具体的な教材内容であるとか、指導マニュアル等の作成を行っていきたいと考えております。作業部会の構成といたしましては、菊池委員長を部会長といたしまして、実際に児童に教える立場の教職員、および事務局メンバーで構成したいと考えております。

作業部会ですが、事務局の考えといたしましては、次回委員会を10月中旬に考えておりますが、それまでに3回程度開催いたしまして、低学年、高学年の学習教材についての案の作成を行っていきたいと考えております。また、第2回の委員会後には、交通環境学習の実践を通して課題の把握を行っていきたいと考えております。まずはこのような作業部会について、設置することの是非について委員の方にお諮りしたいと考えております。

次に、3カ年の概ねのスケジュールを、ご提示させていただいております。こちらについては、お手元の資料2の方ご覧いただきたいと思っております。委員会については、各年度3回程度の開催を予定しております、平成22年度は第2回を10月の中旬、第3回を2月に予定しております。また、翌年度以降のスケジュールにつきましては、今後の検討等で変更される可能性もございますので、概ねの掴みとして把握しておいていただければと考えております。

以上で、資料2の説明を終わらせていただきます。

#### ○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。この資料2に基づいた、小学生の交通環境学習についてという議事なんですけれども、この次第によりますと3つあります。1番目に「本検討の主旨および方向性」と、2番目に「学習内容」3つ目に「作業部会」ということですが、順番にご意見を伺っていききたいと思います。

まず、1点目「本検討の主旨および方向性」ですけれども、ただ今ご説明いただいた資料2のスライドの番号でいいますと、3番から6番ですねここに相当するかと思います。今まで仙台市が、いろいろ行ってきたんですけれども、それを低学年、中学年、高学年それぞれの科目、教科にその学習内容に沿いながら、かつ、その科目間で連携を取った

学習内容を作成することで、この交通環境というものを小学生のこの6年間で、一貫して学ぶというようなことをイメージしておられます。交通の問題、環境の問題といえますのは、我々の生活、身の回りにある生活そのものでございますから、このように何か1回だけぽつと、授業をやるというのではなくて、このように継続的に、そしてそのやることの連携性をきちんと確保しながら行っていくというのが非常に有効的ではないかということで、このような流れを検討されております。まずはこの本検討の主旨および方向性ですね、これに基づきまして3年間この委員会進めてまいりますので、まずこの点につきまして、何かご意見ございますでしょうか。はい、よろしく願いいたします。

#### ○堀越清治委員

スライドの3ページのところで、まず細かいところからなんですけど、表現なんですけども、生活科や社会科、総合的な学習等、各教科と連携してってあるんですけども、総合的な学習の時間というのは教科ではないんですね。ですから例えば「生活科や社会科などの各教科および」、あとマナー入ってますので道徳を入れていただいて、「道徳、カンマして総合的な学習等と連携して取り組むことにより」の方が、よろしいのかなと1つ思っております。それが1つです。

あと、今日せっかく米澤校長先生、高橋校長先生がいらしてるので、低学年で50の学校から要望があるというのは先ほどのお話であったんですけども、やっぱり学校の中でこの交通学習が今の教科書また、来年4月から始まる新学習指導要領の中で、どのような位置づけがされているのか、やっぱり確認をしていかないと、やらないといけないというのは分かるんですけども、やはり必要なことというのは限られているわけなので、時間もですね、ですからそこら辺をぜひ米澤校長先生、高橋校長先生の立場から、今の中でやはり交通体系の中で、具体的に例えば、生活科の中で「まち探検」に行こうとか具体的にでているのですが、そこら辺ご指導いただければ、共通理解が図れるかなと思うのですが、いかがでしょうか。

#### ○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。この文章の細かい最後の表現につきましては、またこの委員会の後にですね、事務局と相談して修正させていただきたいと思います。今のご質問ありました、ご意見ありました点につきまして、米澤委員、もしくは高橋委員の方から何かコメントございましたらお願いしたいと思います。

#### ○米澤孝雄委員

それでは、例えば生活、私は生活科と総合的な部会に係わっておりますので、今の堀越委員から話があったように生活科では、1年生なんかは身近な地域探検、まち探検、2年生あたりから交通公共機関を利用してまちに行つてなんていう学習が始まるんですね。ですから、例えば1年生のときに、学校に来ていただいて乗車体験をして、それが利用リテラシーのようなものを身に付けて、今度は自分でお金を入れて実際のバスに乗

って学習というようなかたち、そういう発展性というのは考えられると思いますね。ただ、3年生になると「わたしたちの仙台市」というんですか、今なんかちょっとそういうのがありますよね、その辺りで仙台市の交通全般について学ぶ機会があるかと思いますが、ただその時に2年生までに身に付けた、生活科で身に付けたそういう体験と、社会科なら社会科での学習というのが切り離されないで、有機的にこう結びついていくと、より公共交通機関の利用などというところに結びついていくように思います。

それから環境学習は、総合的な学習の大きな柱の1つですが、これも子どもたちなりに、例えば市営バス、地下鉄なんかと、自分の父親の利用している自家用車なんていうとなると、頂いた資料にもありますが、1回例えば自分のクラスの親、保護者がみんなマイカー通勤を捨てた場合、どのくらいCO<sub>2</sub>の削減に貢献するんだろうとか、中学年あたりで素朴な疑問として出てくると思います。ですから例えばですね、そういうときに、適切な資料・パンフレットのようなものとか、そういう学習をするときに、講師としていらしていただけたらとか、そういうことが検討されていると大変学校としてはありがたいと思います。ですから、バス1台回すというのだけが、支援ということだけではなくて、パンフレットあるいは、DVDなんかを作って学校に配布するなんていうのも有効な手立てかなと、こんなふうに思います。

そして例えば最終的に、環境学習の発表会なんかもありますから、そんなような会でこういう学習の成果をみんなの前で発表したりとか、そういった一連の6年間の中に流れが行える、つくられると有効だと思います。そういう意味では、スライドの5ページに中学年、今年は低学年、高学年と違った扱いを受けてますが、可能ならば小中高一緒に、一体になって進めていくことが有効かなと考えます。以上です。

#### ○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。事務局の方から何か、特によろしいですか。やはり行政の方とか、あるいはその専門家の方がそれぞれ特別授業のために赴くとなりますと、かなりの労働力になってしまいますので、また手軽にも行えなくなってしまいますので、この委員会のその方向性としてはですね、やはりその学習要領であるとか、学習内容これにまず沿ったかたちで、いかにこの交通環境問題というものを教材としてインストールできるかどうかということを検討していきたいと、やはりそのメインになるのは指導要領であって、その学習内容というものを、メインであるというふうにさせていただきたいのですが、そういったかたちで進めていかないと本当に広範囲に継続的にというは、達成できないのではないかと思いますので、教育関係の委員の方々にはいろいろご意見を伺わせていただきたいと思います。その他に何かご質問ございますか。はい。

#### ○伊勢みゆき委員

質問ではないんですけども、今回全国で何箇所かでやられていて、仙台市の方もこちらを始めるということで、仙台市の独自性ということころまでは、求められてはいないとは思いますが、実は仙台市の教育委員会の方では「仙台自分づくり教育」というすばらしい取り組みをされているんですね。その自分づくりという視点というの

は、非常に私は大事だなと考えております。そのことについては、堀越委員から詳しく伺っていただけると、ありがたいなと思うのですが、結局はどんな、先ほど「〇〇学習」が80近くあるというお話がありました。結局、現場の先生の方が気楽にやれるというのが、1番良いと思うんですね。日ごろの学習に結び付けて取り入れていただけるというのが、子どもたちにとっても、先生方にとってもいろんな学習に広がりやが生まれると思っております。そうなった時に、こういう何とか教育だからという入り方だと、やはり先生としてはもう手一杯というのがもう目に見えております。そういったところで、自分づくりというところでは、やはり一人ひとりが自分ごととして捉えていく、それで考えてどうしていくか、というところにたどり着くんだと思っております。そういう意味で仙台市の教育委員会さんの方では「自分づくり教育」という、いろいろなことに結び付けて考えていらっしゃると思うのですが、この交通環境学習の方もそのような視点をちょっと取り入れて、先生方の方に受け入れられるような方向性であったらいいのかなと思っております。以上です。

#### ○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。その他、ご意見ございますか。たくさんご意見いただきましたけれども、大筋ですねこの3年間かけて、この広範囲で継続的なプログラムを作成していくということについて、まず、その筋についてご確認いただきたいのですが、この方向性については、了承いただけるということによろしいでしょうか。

(了承)

はい、あと、今ご意見ありました中学年についても、同じタイミングでというお話があったんですけども、今年度の一定のまず成果ということを出したいということで、まずこれまで仙台市の方で取り組んでこられた低学年向けと、高学年向けのその事業の内容の反省点、あるいは教材というものが、すでに今たたき台としてございますので、まずこれについて初年度、今年度ですね検討させていただき、中学年については交通側の立場でいうと資料が、手元の資料がありませんので、ゼロからといいますか、一からスタートするという状況で、一点歩遅れているというふうに私の方はずっと理解していたんですけども、このようなかたちで3年間、低学年、中学年、高学年のそれぞれの学習教材・指導マニュアル等を検討していくということで、進めてまいりたいと思えます。ありがとうございます。

#### 2) 学習内容について

それでは、2番目ですね学習内容につきまして、ご意見を伺いたいと思えます。資料のこのページで言いますと7ページから13ページですね、に相当いたします。これ事務局の方で作成したたたき台でございますので、各学年でこういった科目に適しているのではないかと1つのご提案でございます。この資料に囚われずにですね、この学



年ではこういうふうなことを、もう少し教えた方がいいのではないかというご意見等ありましたら、ぜひお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。はい。

○門田陽子委員

私自身、小学校で温暖化の講師等させていただいて、例えば電気の削減だとかそういったことも含めてなんですけれども、どんなに子どもが一生懸命に学んで、理解をしても、家に帰って親がそんなこと面度くさいっていったら、それでお終いになってしまうんですよね。子どもはもちろんこれから未来に向けてなんですけど、そこを受け止めるその家庭に対しての何らかのアプローチと一緒に、例えば、参観日の日にそうことをやるのか、というのはちょっと、それは先生方のご意見を伺ってなんですけれども、親の理解がないとせつかくの子どもの学習は、全く生活の中には活かされていかないと思うので、そこをそれぞれの側面で何らかのかたちで。私はごめんなさい、そこ専門でなくてちょっとイメージがわからないのですが、何かなければいけないのではないかと強く感じておりました。

○菊池輝委員長

この点につきまして何かご意見ございますか。はい、お願いいたします。

○伊勢みゆき委員

今の門田委員のお話を受けてなんですけれども、私も同じようなことを考えておりました。やはり家庭の、結局は家庭でどういう交通手段を使うかで、子どもたちが全て影響を受けているということだと思うんですね。年齢が高くなれば自分で動くということもいろいろあると思いますが、小学生のうちはやはり行動範囲が限られ、1人で動ける行動範囲というのがものすごく限られていると思います。そういう意味では家庭をどう取り込むかというのが、非常に大きな視点かなと思っております。今回はですね、小学校低中高に分けて学習内容の検討、そして教材ということでしたが、もしかしたらそこにPTA行事とか、学年PTA行事であるとか、学校行事等で保護者も一緒に参観というかたちではなく、保護者も一緒にもしかしたら学べるような、学習プログラムがいいのかなと感じました。以上です。

○菊池輝委員長

事務局の方で何かフォローありますか。

○米澤孝雄委員

よろしいですか、私たちは学校教育の立場です。学校教育というのは今社会からいろんな要請があって、今堀越委員がおっしゃったような道徳教育が80科目入ってきているわけですね。例えば今回のこの学習も、そのところはきちっと、原則は原則で立てておかないと、まず私たちは、この学習が子どもたちにとって価値あるテーマだと思うから、子どもたちに価値あるテーマをどのように6年間指導していくか、どのように子どもが発達を見通してプログラミングしていくか、そこがまず第一なんです。そのこと

ころと、家庭の協力が得られないと利用できないから、じゃあ家庭の利用をどう組み合わせれば、というのは全く別のものだと、まず考えていただきたいと思います。でないと、極めて筋の通らない教育計画になると思います。

ですから例えば、1年生でバスを体験しますね。子どもというのは、体験したことは実際に自分でやってみたいという欲求が出てきます。そのときに、2年生、あるいは3年生の「まち探検」あたりで、自分で実際に買って自分で乗ってみる。例えばここにいただいた資料の「みんなで出かけしらべ」、私はこれはむしろ、中学年4年生あたりでこんな学習しておく、今度は5、6年生になって自分1人で、学校によっては現地集合なんて学習を組んでますから、そのときに4年生で教師と一緒に勉強したこれを使って、今度5、6年で自分なりのプログラミングをしてまちに出かけていくようなとか、そんなふうに発展していくと思います。ですから、例えば公共交通機関利用リテラシーなんていうのもそんなふうに発展していくと考えています。

それから環境学習の面からも、子どもなりにバスは環境にいいんだよ、なんていうのは低学年ですね。それが実際に自分で調べて、デジタルしてなるほどと納得するのは中、高学年に至ってです。だからそういう段階を考慮したプログラムを組んでおく、後はキャリア教育にしてもそうですね、子どもというのは高学年というのはいわば、興味期です。自分の興味のあることに、そういうふうになってみたいと思う。男の子というはだいたい新幹線の運転手だとか、バスの運転手というのが多いですね。それがだんだん興味期から能力期になって、自分の能力を吟味してという過程を取りますから、そういうような学習要素も取り入れると、そういう学習要素は6年間でどんなふうに、どの教科とあるいは生活をもっと関連させてつくっていくかと、これが私はこの委員会の第一のまず、私たち小学校教員に課せられた役割だと、こんなふうに認識しています。だからまずそこからスタートなさったらよろしいかなと思います。

#### ○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。今のお話の前半部分ですね、父兄の方をということなんですが、やっぱり入ってもらった方が効果としては広がる、交通環境という立場からみれば広がるかもしれないんですけども、やはりそれを前提として考えて、教育というものがあまり十分な結果が得られなければ、これは仕方がないことですので、まずは子どもたちにしっかりと学んでもらうと、父兄の方々にも間接的に体験といいますか、参加していただくことも可能だと思うんですね。例えば、簡単なお父さん、お母さんにアンケートに答えてもらってね、とかというようなかたちで、アンケートに答えるというだけでもだいぶ態度って変わってきますから、そのような向上的な取り組みというのは、何でしょう、授業を運営する上での1つのオプションとして用意しておけばいいのではないかなと、私個人的には思うのですが。

他、2点目ですね、後半部分につきまして、やはり3年間の中で、しっかり作るというのが1番大切だと、仙台市の高学年でやっていた「おでかけマップ」でしたっけ、あれを作るのが中学年でも可能ではないか、という非常に貴重なご提案いただきましたので、また事務局とそれから作業部会の方ですね、具体的な検討をしていきたいと思

ます。今回は、低学年につきまして、これまで仙台市が使用しておりました「バスノート」ですね、それから乗車体験と、こういう学習内容これをベースに組み立てて、今年度の組み立てていきたいということなんですけれども、この点については何かご意見ございますでしょうか。

○鈴木義男委員

よろしいですか。東北運輸局の鈴木です。教育という面では、ほんとに門外なので、特になかなかお話できないのですが、当局あるいは、国土交通省としましては、相当の交通運輸全般と環境というような基礎的なデータをもちあわせておりますので、そういった面で必要なものがですね、ソフト、ハード含めてご希望があれば、声をかけていただければというふうに思っておりますので、ここのテキストもですね、交通局さんと一緒につくらせていただいておりますので、各県に展開しているケースもございますので、そういう意味ではデータベース含めてですね、問い合わせいただければご協力できるかなと思っております。

○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。また具体的に教材あるいは学習内容を検討していくにあたってですね、こんな資料が欲しい、こんなデータが欲しいということたくさん出てくるかと思っておりますので、そのときにはぜひご協力の程よろしくお願ひしたいと思います。

○門田陽子委員

1つだけすみません、そちらもこれからだと思っておりますが、環境、CO2というところが、まだデータが少ないと思うんですね。私たちは目に見えないゴミという言い方をして、ゴミ袋に詰めてみたりとか、仙台市指定のゴミ袋だと何メートル走るといくつ出るとか、そういった形で数値化というか「目にみえる化」を、子どもたちと一緒にゴミ袋に空気を詰めて、積み上げてみたりとか、そういったことをしているんですけども、そういう意味での車が走ったときに全く見えないので、そういったところでないところちょっと特殊ページというか、その影響を、よいというだけではなくて、見て何がそういったものかないのかなと思っております。そういった情報は、私たちからもたくさん出せると思っております。

○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。余談ですけども、大人になってもCO2が何グラムとか、何キログラム削減とか言われても、ぴんとこないんですよ。体積にして、ペットボトル何本分ですとか言われると、えっそんなに出しているのか、とかいうノウハウはあるんですけども、なかなか数字としては想像し難いものなので、またいろんなことを、そうならない表現が小学生に対して1番理解してもらえるか、ということも含めて検討していきたいと思っております。その他ございますか。よろしいでしょうか。はい。

○伊勢みゆき委員

今、地下鉄の東西線が造られているわけですが、今回は低学年バスということがベースになっておりますが、今後の作業部会での中の検討になるかもしれないのですが、今回、地下鉄という公共交通の手段については、どのあたりまで取り組んでいくかというのは、どういう、どの時点でのお話し合いになるのでしょうか。

○菊池輝委員長

よろしいですか、事務局の方で。

○事務局（若生公共交通推進課課長）

これまでの取り組みが、どうしてもバスというトピックに特化してますので、先ほど米澤先生の方からもお話がありました、中学年で「私たちのまち仙台」という中に、実は交通部分が、今のところ取り込んでないものですから、「仙台市の公共交通」という仕組みをですね、やっぱり子どもたちに学習として、かつ内容を取り入れて理解してもらうことも当然大事ですので、地下鉄という鉄道も含め、公共交通が一体となったかたちの学習内容といたしますか、そういうもので組み立てていければと思います。

3) 作業部会について

○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。それでは、3点目ですね、作業部会について議事に入ります。今の話の中でも、この作業部会があるという前提で、少しお話を進めさせていただいて恐縮なんですけれども、事務局の提案といたしましては、実際的に具体的な内容を検討する作業部会というものを、この本委員会の下に設置したいということでございます。その作業部会のメンバーなんですけれども、小学校の教員の方、6名程度に参加いただいて、実際に現場で働かれている方のご意見を基に、具体的な内容を検討していくというものを提案しております。この設置するということ、ですね、それから資料の14ページにある構成員の案についてですね、ご意見といたしますが、ご異論等ございますでしょうか。特になければ、この作業部会設置という14ページの方針で進めさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

(了承)

はい、ありがとうございます。この作業部会のメンバーの構成なんですけれども、今日第1回目の委員会ですが、後からまた日程調整があるかと思っておりますけれども、非常に今年度何らかの成果を出すと、一定の成果を出すということで、非常に限られた時間で進めていかなければなりませんので、このメンバーについてはですね、委員長と事務局、あと副委員長に一任いただくということで了承いただきたいのですが、よろしいでしょうか。

(了承)

はい、ありがとうございます。それでは、私と副委員長、それからまた委員方々のご意見などを個別に伺いながら、決定したいと思います。ありがとうございます。

(3) その他

1) 次回開催日程の確認

○菊池輝委員長

それでは、議事の3番目ですね「その他」ということですが、こちら事務局の方からお願いいたします。

○事務局（若生公共交通推進課課長）

何度か発言させていただきました、公共交通推進課課長の若生でございます。申し訳ありません。その他でございますけれども、まず第一点でございますけれども、その前に、次第の方で、その他が(2)となっておりますが、(3)でございます。申し訳ございません。

その他でございますけれども、まず次回の委員会でございますけれども、10月の中旬を予定したいと申し上げました。10月少しまだ向こうでございますけれども、この場で日にちを指定させていただきまして、皆様のご都合を確認させていただければと思います。第1案といたしましては、10月7日午後3時からでございます。第2案といたしましては、10月15日午後3時からでございます。両日とも木曜日でございます。すみません、第2案は10月14日午後3時からでございます。両日とも木曜日でございます。この2案でお計りしたいと思いますが、現時点でご都合等ございましたら。

○堀越清冶委員

仙台市は二学期制、二期制を取っているものですから、10月8日が一学期の終業式になります。その前日に、特に校長先生方どうなのかなと。通信表も渡す関係でいろんな作業があります。それから14日はまさに二学期がスタートする日なので、この日が始業式ということで、それから評価の準備委員会があるので部会長の校長先生方はそれでご挨拶となります。それから、作業部会があるんですけども、先生、教員もですね結構忙しいので、もちろん事務局から校長に打診があって、了解を得てからということで、1番早く開くにしても、できれば夏休み中に一度開かれるのがたぶん限界だと思いますね。そうしますと、夏休み明けますと、9月というと陸上記録会の練習とか、あとは10月8日に目指して通信表の提出等もありますので、予定では3回開いて10月7日とか14日というふうにおっしゃっているのですが、ちょっと苦しいと思います。そういう意味でそれも含めて、次回、もちろん年間計画の中ではあるんですけども、ぜひ調整していただくとありがたいなというふうに思います。

○事務局（若生公共交通推進課課長）

私どもの方で、学校行事について全く調整せずにですね、予定を進めさせていただきました、大変失礼いたしました。では学校行事等の関係もございますので、私どもの方から各委員に、ある程度の候補日をお知らせいたしまして、それで開催の日程等ですね相談させていただければと考えています。後日ご連絡差し上げますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

2) 作業部会の開催予定

○事務局（若生公共交通推進課課長）

第2点目、ちょうど今堀越委員の方からお話がありましたが、作業部会でございます。やはり7月も終わりました、8月夏休みということでございます。米澤委員、高橋委員にご協力いただきながら、作業の部会のメンバーを決定いたしまして、8月10日の午前10時から予定したいと考えてございます。場所等につきましては、改めてご連絡いたしますが。今お配りいたしました、第1回作業部会につきましては、8月10日火曜日午前10時から12時で予定をしたいと考えてございます。場所はこの本庁のはす向かいといいますか、青葉区役所の北側でございます、仙台市の上杉分庁舎5階第3会議室を予定してございます。ご都合のよろしい委員におかれましては、ご参加いただきながらですね、意見交換等をしていただければと考えてございます。これはご案内でございます。事務局からは以上でございます。

○菊池輝委員長

はい、ありがとうございます。それでは本日予定されている議事ですね、これは全て終了いたしました。私の要領が悪くてですね、ちょっと時間の方が超過してしまいましたけども、何卒ご了承いただきたく存じます。また今後とも3年間という長い期間に渡って、ご協力お願いすることになりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、本日はどうもありがとうございます。それでは、マイクの方を事務局の方に移したいと思ひます。よろしくお願ひします。

8 閉会

○事務局（菅原主査）

はい、ありがとうございます。続きまして、閉会といたしまして、公共交通推進課長の若生よりご挨拶いたします。

○事務局（若生公共交通推進課課長）

本日は長時間に渡りまして、第1回目のこの委員会、皆様の活発なご意見いただきまして大変ありがとうございます。役所の悪いところと言いますか、年度主義でございまして、すでに8月末となりますともう半分過ぎてしまうと、今年度ということで、この

委員会を通しまして、実際の資料づくり、検討、それから実際の授業をやったりですね、その成果等についての取りまとめということで、盛りだくさんでございますけれども、今後ともですね委員の皆様のご協力を得ながら、まずは初年度、いろいろ検討を進めてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。本日は、大変ありがとうございました。

○事務局（菅原主査）

本日は長時間に渡るご審議、誠にありがとうございました。これをもちまして、本日の「第1回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会」を閉会とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。





議事録署名人

平成22年10月7日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 委員長

菊池 輝

平成22年10月7日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 副委員長

吉村敏之

平成22年10月7日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 委員

門田陽子

# 第1回

## 仙台市小学生交通環境学習推進委員会

〈これまでの取り組み〉

平成22年7月

仙 台 市

## 目次

- 1 はじめに
- 2 小学生に向けた取り組みの背景
- 3 これまで行ってきた取り組み

# 1 はじめに

- 人口減少時代の到来、急速な高齢化の進展が見込まれる中、仙台市では持続的発展と暮らしやすさの確保を目指し、公共交通の利便性向上を図り、賑わいのあるまちを市民とともに創ること目指しています。
- 自動車は行きたいところに気軽に、かつ快適に移動できる素晴らしい乗り物ではあるが、大気汚染や地球温暖化などの環境問題や慢性的な交通渋滞、公共交通機関の衰退など様々な問題を引き起こしている。とくに地球温暖化問題については、2004年度の我が国の二酸化炭素排出量のうち、運輸部門は20.4%を占めており、そのうちの49.5%を自家用乗用車が占めている。
- そのため、運輸部門からの二酸化炭素排出量を削減するためには、一人ひとりが公共交通と環境問題との関わりを認識・理解することが肝要である。

# 2 小学生に向けた取り組みの背景

## 公共交通離れの進行

- 本市においても市民の公共交通離れ、特にバス離れが進み、市交通局の1日平均のバス乗降者数は、ピーク時(昭和55年度)の305千人から、平成20年度は107千人へと大きく減少している。

## 乗車習慣の低下

- 最近では親が公共交通を利用しないために、子供の頃から公共交通を利用する機会が減り、公共交通を利用した経験が無い小学生が増えてきている。

## 環境意識の醸成と公共交通利用の促進

- 小学生に公共交通と環境について学ぶ機会を創出し、小学生の意識と行動を環境に配慮したものに変え、将来の公共交通利用者へと育成することは、本市が暮らしやすく持続的に発展が可能な都市へと転換していくために重要な役割を担うものと考えられる。

### 3 これまで行ってきた取り組み

#### ① 小学校低学年(1・2年生)への取り組み

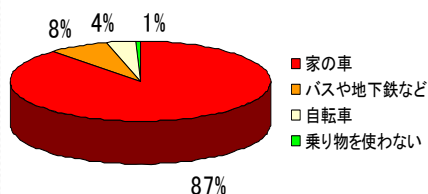
- バスをより身近に感じてもらえることを目的として、路線バスで使用されている車両を学校に配車し、実際に乗ってもらうことでバスの乗り方を学んでもらう取り組みを行ってきた。
- 平成19年度までは、市職員による直接的な事業を展開してきたが、平成20年度からはNPOとの協働による事業を行うなど、この取り組みを継続的かつ普及拡大させるための事業手法を模索してきた。
- 目的地については、実施する小学校に任意に設定してもらっていたものを、目的地をバス営業所(整備場・洗車場)、CNGガスステーションなどにし、路線バス等に関する理解が深まるように改善してきた。



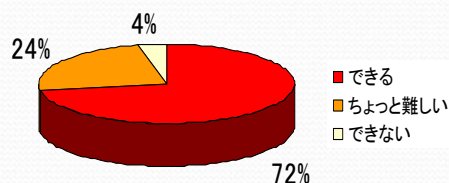
バス乗車体験実施校の推移

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	合 計
実施校(のべ)	3	7	15	20	6	5	56
実施校(新規)	3	4	9	4	4	4	28
参加人数	221	513	808	1,026	225	233	3,026

普段、おうちの人と出かける時、一番よく使う乗り物は何ですか？【回答】195名(平成21年度)



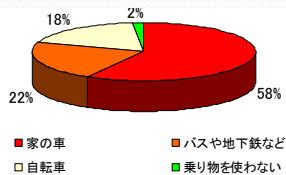
これから、おうちの人といっしょにバスに乗ることはできそうですか？【回答】195名(平成21年度)



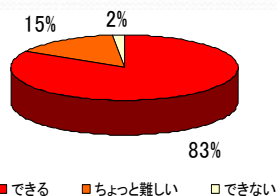
## ② 小学校高学年(5・6年生)への取り組み

- 路線バスを利用して学校から目的地まで行けるように、インターネットやバスの路線図を使って乗降駅・利用バス停・利用路線の調べ方を学んでもらう「お出かけしらべ教室」を実施した。

普段、家族と出かけるとき、一番よく使う乗り物は何か？【回答】65名(平成21年度)



これから、一人でバスに乗ることはできそうですか？【回答】65名(平成21年度)



7

## ③ 小学校からの意見

- ・ 参加した小学生は楽しみながら学習することができた。
- ・ 低学年では実際に乗車するという体験を通して学習することで、理解が深まる。
- ・ 親子のコミュニケーションの非常に良い機会となった。
- ・ 説明が長く、小学生が飽きてしまった。
- ・ DVD等で事前学習することで、小学生がより理解を深めるのではないか。

8

#### ④ 今後の課題

- ・ 参加の意向確認では多くの学校から希望があるが、実施できる学校数が限られている。
- ・ 実施が単発的であり、複数年に渡って継続的な事業になっていない。
- ・ 職員や説明員は小学生への説明に慣れていないため、小学生に理解されにくいところがある。
- ・ 環境面の説明が不足しており、交通と環境を連携させることが必要。
- ・ 小学校の先生に対しても、交通と環境に関する知識や理解を深めてもらう必要がある。

# 第1回

## 仙台市小学生交通環境学習推進委員会

＜小学生への交通環境学習について＞

平成22年7月

仙 台 市

## 目次

- 1 本検討の主旨および方向性
- 2 学習内容について
- 3 作業部会について

# 1 本検討の主旨および方向性

- 小学校低学年，高学年に対して，取り組んできた「バス乗車体験」や「お出かけしらべ教室」などは，小学生の学習題材として有効だと考えており，生活科や社会科，総合的な学習等，各教科と連携して取り組むことにより，全市的に継続的な取り組みの検討を行っていきたい。
- 本取り組みを広範囲に継続的に進めていくためには，公共交通だけではなく，環境教育と連携して小学校教育の一環として実施できる枠組みを構築する検討を行っていきたい。

3

## ■委員会での検討の流れ（案）

### <Step 1> 交通環境学習内容の検討

委員会，作業部会において交通環境学習内容の検討を行い，交通環境学習教材（案）や指導マニュアル（案）を作成し，社会実験として市内小学校での実施を行う。



### <Step 2> 交通環境学習教材および指導マニュアル等の策定

交通環境学習教材の精査を行うとともに，社会実験で得られた小学生や小学校教員の反応等をもとに，指導マニュアル等の精査を行い，社会実験を通じて交通環境教材および指導マニュアルの作成を行う。



### <Step 3> 交通環境学習の普及に向けた検討

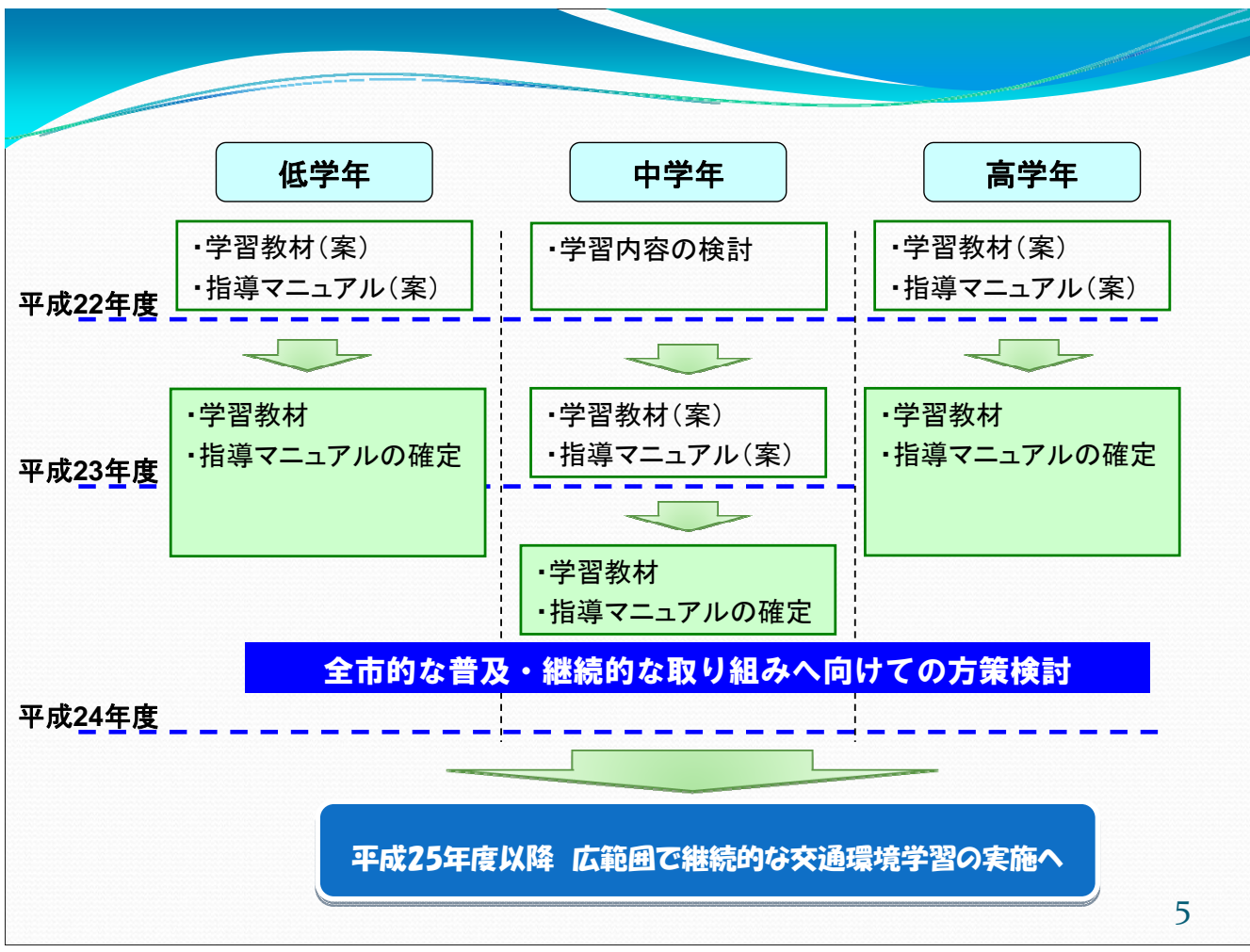
交通環境学習が全市的に普及していくことを目標に，担い手の検討を行うとともに，担い手の自主的な実施上の課題検討を行い，社会実験を通じて実現性の検証を行う。



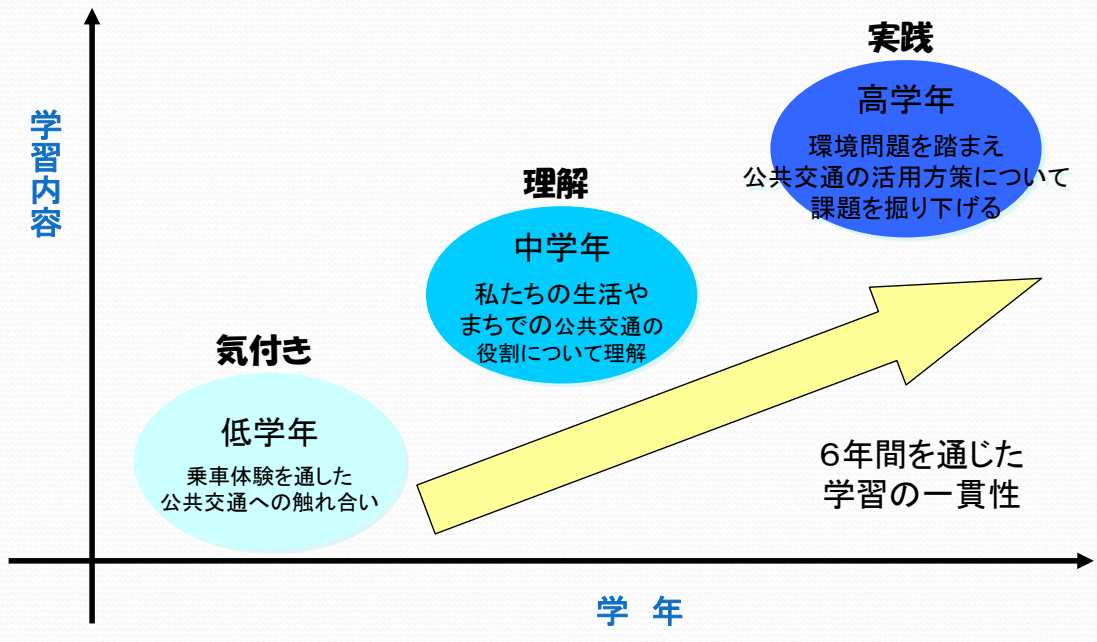
広範囲で継続的な交通環境学習の実施へ

4





### 交通環境学習の内容と検討の流れ（案）



## 2 学習内容について

### ◆小学校低学年(1・2年生)での学習内容のイメージ(案)

- バスや鉄道に実際に乗車する機会を創出し、体験を通して小学生に公共交通が環境にやさしい乗り物であることを学んでもらう。
- 生活科では「まちにいく計画を立てよう」や「乗り物にのるときのマナー」などの学習を行うことから、仙台市の公共交通に特化した、分かりやすい補助的な教材を活用して乗車体験を行うなど、小学生の理解を深める取り組みが行えるのではないか。
- その他

### 具体的な学習内容【イメージ(案)】

- ・ バスの乗り方・降り方
- ・ 車内でのマナー
- ・ バスの種類や、構造や特徴、様々な機能などの学習
- ・ バスが環境にやさしい乗り物であること 等々

### ◆小学校中学年(3・4年生)での学習内容のイメージ(案)

- 環境やまちづくりなどにおける公共交通の役割や必要性について学んでもらう。
- 社会科では仙台市や宮城県など「まちの仕組み」について学習することから、地域の公共交通がどのように整備されていて、どのように生活や環境に関わっているかなどを理解できるような補助的な教材を作成し、各学校で活用していく取り組みが行えるのではないか。
- その他

### 具体的な学習内容【イメージ(案)】

- ・ 仙台市の公共交通の状況
- ・ 公共交通のはたす役割
- ・ 公共交通と環境

等々

## ◆小学校高学年(5・6年生)での学習内容のイメージ(案)

- 総合的な学習において「環境」や「私たちのまち」等をテーマとして、一人ひとりが交通や環境を自分自身の問題として捉え、問題意識をもって課題を発見する「課題発見型」や、課題を解決するために自分自身が何を出来るかを考えてもらう「実践型」で学習する。
- 問題解決や社会的貢献などの、行動する喜びを実感できるような教材を作成し、「交通環境学習」に対する小学生の学習意欲を高め、理解度を深めることが期待できるのではないか。
- その他

### 具体的な学習内容【イメージ(案)】

[課題発見型]

#### ■ 地球温暖化について考える

地球温暖化の現状と影響を学び、CO<sub>2</sub>排出量削減の必要性和方法を考え、課題を実践に移す動機を活性化する。

#### ■ 交通ゲーム

クルマと鉄道利用の特徴を学び、社会的効率性の概念の理解を深める。

[実践型]

#### ■ かしこいクルマの使い方を考える

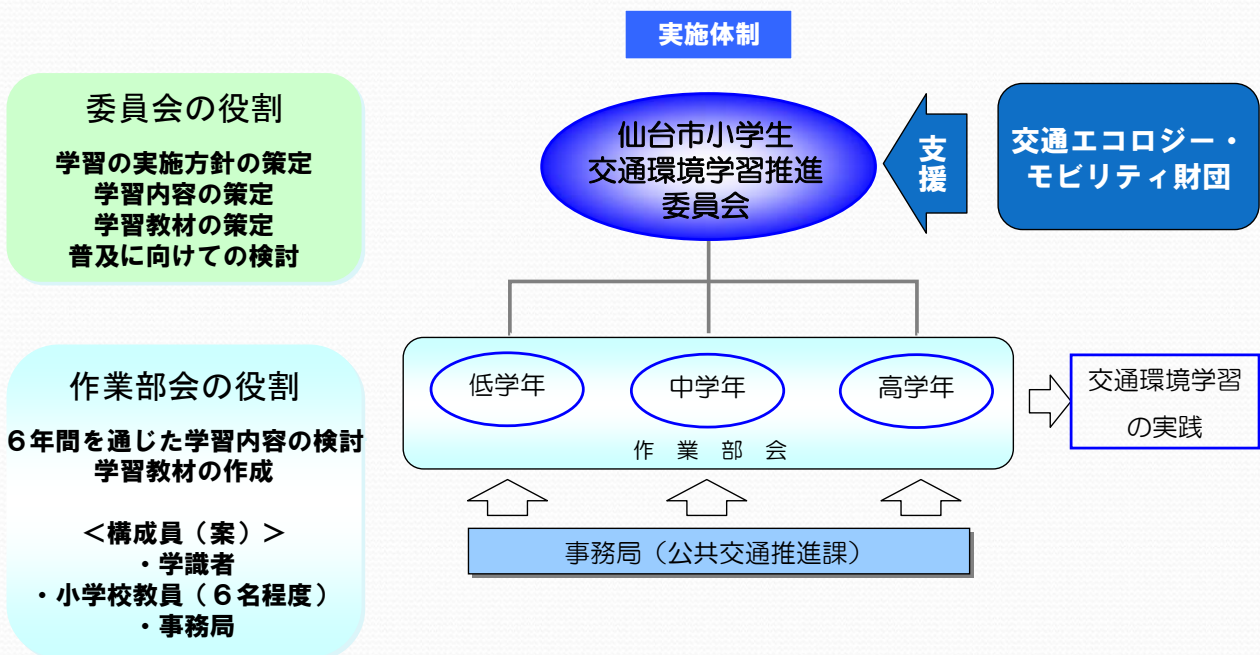
地球環境問題を理解して、交通に着目したCO<sub>2</sub>削減に向けた利用の仕方を考え、「みんなでお出かけしらべ」を発展させ、実践と評価を通して環境改善に貢献する喜びを醸成する。

## ■取り組みの評価（案）

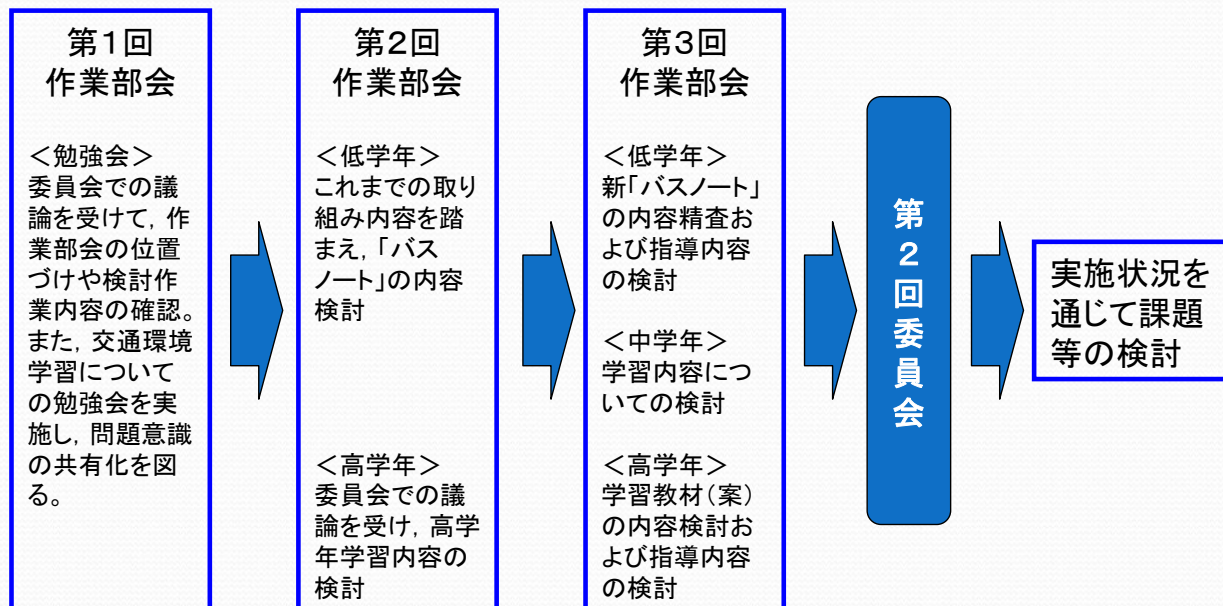
- 児童や教師・保護者に対して**事前・事後のアンケート調査を実施し**、取り組みの評価と次年度への課題を把握するとともに、支援期間終了後の継続的な交通環境学習につなげていく。

# 3 作業部会について

## ■検討体制の全体像



## ■平成22年度 作業部会の検討イメージ



平成22年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局		◆実施計画の検討 ◆関係者との調整			◆実施内容の検討 ◆教材の検討 ◆実施校との調整			◆交通環境学習の実施 (低高)				◆完了報告書提出 ◆報告書のとりまとめ
委員会				【第1回委員会】 ※趣旨説明、方針確認			【第2回委員会】 ※学習内容確認(低高)				【第3回委員会】 ※結果報告学習教材 (案)(低高)	
作業部会					◆学習内容の検討	◆学習教材の検討 ◆指導マニュアルの検討		◆実施状況の確認		◆課題・改善点の整理		

学習教材(案)・指導マニュアル(案)の策定

平成23年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局	◆関係者との調整			◆実施内容の検討 ◆教材の検討 ◆実施校との調整				◆交通環境学習の実施 (低中高)				◆完了報告書提出 ◆報告書のとりまとめ
委員会			【第1回委員会】 ※実施内容の確認			【第2回委員会】 (低中高) ※学習内容確認					【第3回委員会】 ※結果報告(低中高)	
作業部会				◆学習教材・指導マニュアル の修正	◆学習教材・指導マニュアル の作成		◆実施状況の確認		◆課題・改善点の整理			

学習教材・指導マニュアルの策定

平成24年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局	◆関係者との調整			◆実施内容の検討 ◆教材の検討	◆教育への位置づけと普及に向けた枠組みの検討		※教育への位置付け ※枠組みの構築	◆交通環境学習の実施 (低中高)				◆完了報告書提出 ◆報告書のとりまとめ
委員会			※実施内容の確認 【第1回委員会】			※学習内容確認(低中高) 【第2回委員会】					※結果報告 【第3回検討会】	
作業部会				◆学習プログラムの検討	◆導入上の課題検討		◆交通環境学習の実手法					

小学校での取り組み方法の確定